

# 妊婦HIV検査95.3%

厚労省研究班が調査

HIV母子感染の予防  
HIVに感染している  
妊婦が予防策を取らずに  
出産した場合、生まれてくる赤ちゃんに感染する

**クリック**

調査した国立病院機構  
仙台医療センターの和田  
裕一副院長は「検査は1

七割に当たる千百四十五  
施設が回答。都道府県別  
で最も実施率が高かつた  
のは山梨、静岡の100  
確率は20~25%といわれ  
る。しかし妊婦への抗H  
IV薬の投与や、帝王切

開による出産などの対策  
を講じることで母子感染  
のHIV検査が重要。妊  
婦自身の健康管理のため  
に大切だ。感染妊婦へ  
の薬の投与は通常、妊娠  
14週ごろから始めること  
を0~5%程度にまで減ら  
せるため、妊婦健診で  
受けることが望ましい。

つた。

V)の母子感染予防に重要な、妊婦のHIV検査の実施率は昨年度、全国の病院で平均95.3%で、前年度より0.6倍上昇したが、率には最大で二倍近くの地域格差があることが、厚生労働省研究班の調査で四日分か

検査の重要性をさらに啓発していくことが重要だ」と話している。

全国千六百十六病院の産科、産婦人科に、血液でHIV感染の可能性を調べる「スクリーニング検査」と呼ばれる一次検査の実施状況を尋ね、約

前年度より  
0.6倍上昇

**地域格差最大で2倍**

回ったが、ほかは岡山93  
・1%、山口86・9%、鳥取80・5%、島根79・  
2%といずれも平均を下  
かになり、年間出産数が  
百件未満の病院の7・9  
%が検査をしていなかつ  
た。一方、産科医一人当たりが取り扱う出産件数  
と実施率の関係を調べたところ相関は低く、実施率が低いのは医師不足が原因とは言えないことが分かった。

%以上は二十五都府県あつた。これに対し最も低を始めた一九九九年度と十六都道府県で実施率が上がつており、宮崎でも20倍上昇。地域格差も縮み低さで、地域によって大きな開きがあつた。

中国五県では、広島が97・2%で全国平均を上 %で、この二県を含め95 %以上は二十亜都府県あつた。ただし、研究班が調査を始めた一九九九年度と十六都道府県で実施率が上がり、宮崎でも20倍上昇。地域格差も縮み低さで、地域によって大きな開きがあつた。

回つた。